

この地球がほろもどくまで 朝がはじまっている

谷川俊太郎「朝のリレー」より

私ぐらゐの年になると、朝の目覚めがはやい。
五時には新聞受けの前に立っている。

この時間の空気がとても澄んでいる。
森や木々が再生するために最も呼吸をしている時間だ。

澄んだ空気のおかげで普段は聞こえてこない小さな音が私の体に届く。
川のせせらぎ、風の音、小鳥のさえずり、木の葉のさやぐ音は、地球が生まれている
証拠でもある。

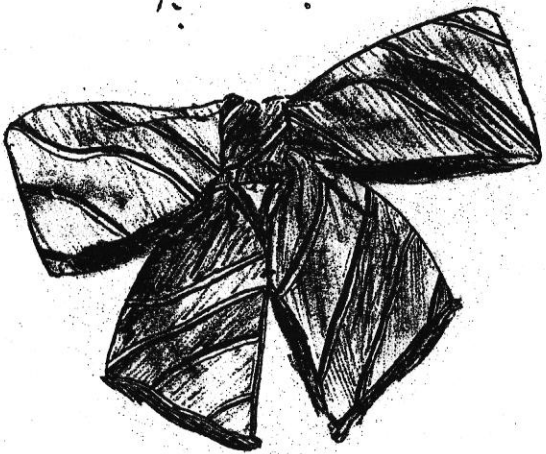
そんな中
私の体が今日一日の活動に向けてそわそわ
してくる。

私も君たちも親も兄弟も友達も
みな同じ場所と同じように生まれて同じように
そわそわしながら今日といつ日をむかえているのだ。

地球が生き物がすべてが
今日で生きぬくためにそわそわしている時間なのだ。

大地が呼吸して命の鼓動とともに
新しい朝が毎日のように私たちに届く。

この地球ではいつもどこかで朝がはじまっているのだ。



繰り返す自然の摂理の中で、私たちも誰かに受け取った幸せのバトンを
リレーしなければならぬ。

今、この瞬間にも、知らない国を照らす朝日の中で、おはよう！と
誰かが言っているのだ。

様々な人々の新しい朝が始まっていく。
私たちは朝をリレーするのだ。

福三平

枝長登
だより

ほろもどくまで

平成二十八年七月八日(金)

NO.107

朝焼けの中に
上りの日
出づる
早稲田 田島